

コロナ禍に思う住宅耐震化の大切さ

確立した治療薬とワクチンが存在しないウイルスに対し、人類は人と人との接触を極力減らす対策を余儀なくされています。経済活動の停滞、先の見えない不安に対するストレスと戦いながら、なんとか日常を持ちこたえているというのが現状ではないでしょうか。

対人接触を減らす最も有効な方法は、自宅から外に出ないことです。非常事態宣言下では、外出を可能な限り減らすことが求められています。しかし、もしも今大地震が私たちの街を襲ったとしたらどうなるでしょうか。自宅の生活を奪われた被災者は避難所に殺到します。過去の地震被害で経験したとおり、避難所はまさに密閉、密集、密接の空間です。たださえ自由とプライバシーを奪われた空間にウイルスの恐怖が重なったとしたら……。

このような未解決のウイルスや細菌のリスクは今後もある程度の可能性で私たちの生活を脅かすことになるでしょう。そのときの万が一の大地震に対しても安心して自宅避難ができることは、今日の社会の中ではかなり優先順位の高いものになってきたと思います。

今回のコロナ禍が無事去ったあと、私たちは次の禍に備えることが求められます。大地震後も自宅で生活を続けられることの大切さ、あらためて実感しています。

達人塾ねっと会員 井戸田秀樹



